

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「基本理念」、「六つの誓い」、事業所の年次目標を掲げ、地域に愛されるグループホームを目指しています。		
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送り等で管理者と職員が理念の唱和を行い、理念の実践に向けて日々取り組んでいます。		
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域に於いては、まだ浸透されているとは言い難いが、地域運営推進会議や行事等を通して、ご家族様や地域の方々々に理解を得られるよう取り組んでいます。	○	今後は町内会の行事等への積極的な参加を通じ、認知症の啓蒙活動を行っていききたい。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	一部の近隣の方々に畑作りのご指導や、取れたての野菜や漬け物等を頂くなど、身近なお付き合いをさせて頂いているが、他の近隣の方々との交流は不十分です。	○	お付き合いのあるご近所の方同様、他のご近所の方とも交流が深まるよう積極的な関わりを持っていききたい。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会等の諸行事には極力参加するよう努めています。		
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	介護に関する相談窓口になっています。	○	相談窓口機能をより充実させ、地域の方々に対し、広く知って頂けるようホーム便り等を通じて、広報活動へ取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>入職してまもない職員は、評価の意義の理解は十分とは言えません。</p>	○	
<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、ホーム内の出来事や取組みについて報告を行い、意見を求め、サービスの向上に活かせるよう努めています。</p>		
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>行政や自治体と行き来の機会が少ないため、サービスの質向上への取り組みは十分とは言えません。</p>	○	<p>機会を設け、行政等へ積極的に相談にいきたい。</p>
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修会等で学習しているが、実際に利用の機会がなく、利用や活用が十分とは言えません。</p>	○	<p>活用の有無に関わらず、研修会や勉強会等を通じて、制度に対する理解を深めていきたい。</p>
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>入職まもない職員が多いこともあり、高齢者虐待防止法についての周知は十分とは言えません。</p>	○	<p>新しい職員を中心に、勉強会等を通じ学習の機会を設け、虐待防止に取り組んでいきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居者様やご家族様に不利益が被らないよう、時間をかけて丁寧に説明しています。特に重要事項の説明は十分時間をかけて行っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者様の意見、不満、苦情については真摯に受け止め、経緯や原因を探り、再発することのないよう改善に努めています。また、どんな小さな内容であっても、苦情報告書を作成し各部署への報告を義務化しています。</p>	○	<p>今後も入居者様に関わりを深め、積極的に意見、要望等の集約に努め、運営に活かしていきたい。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月送付しているご家族様へのお便りや電話、来訪時等に入居者様の日常生活の様子について、ご家族様に報告しています。入居者様の預かり金については帳簿へ記入後、預かり証を発行しています。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族様からの意見、不満、苦情についても入居者様同様、真摯に受け止め、迅速に対応しています。苦情報告書も同様に作成し、報告義務を課しています。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月一回の全体会議で意見や提案を審議しています。また、各職員と普段から面談を実施し、意見の集約、反映に努めています。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>全職員の協力の下、勤務調整を行っています。また、適正人員の配置に努め、業務に支障がないよう取り組んでいます。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動や退職については、入居者様の精神的ダメージが強い為、十分配慮しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業計画に基づき、研修会や勉強会を計画的に受講できるよう取り組みを始めたところです。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	西区の管理者連絡会において、他の事業所との交流見学やネットワーク作りを実施しています。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	月に一度、経営者会議を開催し、職員の士気に関する事項を報告し合い、ストレスの軽減に向けた取組みを行っています。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	半年毎に人事考課を実施し、自己目標を設定し目標達成に向け取り組んでいます。また、それらを正しく評価することで、更なる向上心が持てる機会を設けています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居者様へ不必要な先入観を持たず、入居者様個々人の状況を理解し、支援できるよう心掛けています。入居者様から発信されるサインを見落とさず、すぐに対応することが最も重要と考え、信頼関係を構築できるよう日々努力しています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族様が抱く不安や負担を出来る限り軽減し、希望が持てる対応をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様が抱く不安や負担を出来る限り軽減するため、必要としている支援が何であるかを見極めるため、こまめに話し合いの場を持ち、希望が持てる対応を心がけています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居者様の性格や人生観を尊重し、その人らしい環境を提供できるよう努めています。また、ご家族様からの情報も入居者様を理解する上で重要と考え、アセスメントシートに必要な情報を随時記入し、職員間で情報を共有し、ホームの雰囲気にも馴染めるよう取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生経験豊かな入居者様から、学ばせて頂くという姿勢を常に心がけ、介護する側、される側ではなく、ホームにおいて共に生活し、暮らしを支えることを実践しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様は、入居者様を支援していく上で欠かせない存在であり、良好な関係を構築、維持していくために、誠実な態度で接し協力体制を仰いでいます。ご家族様と共に悩み、共に喜べる関係性を保つよう全職員が心掛けています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	入居者様の思い、ご家族様の思いを受け止めさせて頂き、職員が介在することにより、良好な関係が築けるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入居者様が自由に活動できるよう、出来る限り外出支援を行っています。また、ご家族様やご友人との電話連絡や訪問、来訪を歓迎し、社会から孤立することがないように取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知症の症状の顕れ方により、入居者様同士の関わり合いが難しい場面もありますが、食事の際、座席の位置を工夫したり、職員が入居者様同士の間を取り持ち、会話ができる環境を作ったりしています。	○	入居者様個々人が孤立せず、入居者様同士が関わり合いが持てるように職員間で話し合いを行い、工夫していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された方は、ご家族様の住所変更、電話番号の変更等で連絡を取ることが難しくなっています。また、他の医療機関等に転院された方へお見舞いに伺い、出来るだけ関係を継続できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の入居者様の思いを把握しづらい状況はありますが、アセスメントシートの生活歴情報等を活用して入居者様の意向を汲み上げたり、要望の把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し生活歴や習慣等の情報をまとめています。また、ご家族様の協力のもと生活歴情報等を聞き取りしたり、生活環境を整えるのに利用しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	24時間シートを活用し、入居者様が一日どのように過ごされているか細かく把握しています。また、入居者様が出来ること等の情報もそのシートで収集しています。その他看護師を中心に健康管理や医療機関の情報をまとめています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族様の意見を反映した介護計画を立案、作成していますが、職員間での情報共有は十分とは言えません。	○	細かい情報収集が全職員で行えるような仕組みを構築していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご家族様にはその都度話し合い説明を行っています。	○	今後は職員全員で情報の収集を行い、介護計画作成に役立てたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活の記録は介護計画の根拠や問題の発見に活かされています。また朝・夕の申し送りで情報の共有をしています。その他連絡ノートを使用して細かい情報の共有も行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者様とご家族様の要望や状況に応じ、病院受診、買い物、レク等の送迎を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	防火訓練・消火訓練等で地域との関わりを持っています。また地域の児童館の子供達との交流は入居者様の楽しみとなっています。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現状は他のサービスを受ける機会はほとんどありません。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは、運営推進会議を通じて意見交換を図っているが、現状で権利擁護等の支援を受けられている入居者様がいないため、その点については協働できていません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族様が以前から利用されていた病院への通院は継続していますが、ご家族様の希望によりホームのかかりつけ医に変わられる事もあります。またホーム看護師が主治医との連携の窓口となって対応しています。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症専門の医療機関が少なく、治療を受けられる病院が限られています。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>ホーム看護師と日常業務の中で情報の共有・連絡を行っています。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院された場合その都度お見舞いに行き、入居者様の状況を把握しています。またその時点の入居者様の状況、情報をホームに持ち帰り、その都度病院と連絡調整し、退院に向けて職員間で情報の共有に努めています。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>現在、重度化した入居者様はいないのでターミナルケアに取り組んではいませんが、今後予想される重度化対応に備えて指針、マニュアルの整備を行い、取り組んでいきます。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在、重度化した入居者様がいないのでターミナルケアに取り組んではいませんが、今後予想される重度化対応に備えて指針、マニュアルの整備を行い、取り組んでいきます。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居前にご家族様からの情報や入居者様が利用していた他のサービス情報を収集し、その情報をもとに事前にカンファレンスを行っています。その取り組みにより、入居者様が住替えによるダメージが起こらないように努めています。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様は人生の大先輩であり、尊敬と敬意をはらい、自尊心を尊重することに十分配慮しています。また、個人情報保護方針に基づき、ホーム内外に個人情報が漏れないよう十分に注意を払っています。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活における諸活動は、入居者様本人に決めていただいています。その都度決める際は、入居者様の希望を伺い、本人の意思に沿った支援を心がけています。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者様本人の要望がある時は、その要望に沿って一日の業務内容を決めていきます。また、一日の業務内容を誰が見ても分かるようにホワイトボードに記入しています。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出できる入居者様は、本人が希望する理・美容院に行ってます。外出が困難な入居者様は、訪問理・美容を利用し、本人が希望する髪形にしたりパーマをかけたりしています。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者様の好物を食事のメニューに取り入れる配慮をしています。また、一部の入居者様は、一緒に盛り付け等の準備や後片づけ等を手伝ってくれています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒される入居者様は少数ですが、居室にて飲酒されています。以前は喫煙される方もいましたがご家族様の希望もあり今は禁煙されています。その他ご家族様が持参したおやつを食したり、買い物外出時に入居者様自身で購入されたり、自由に楽しめるよう支援しています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツ使用を極力避けるため、また、夜間の失禁を防ぐために入居者様個人に合わせた時間に声かけをしてトイレ誘導を行ったり、入居者様個人に合わせた排泄補助具を使用したりしています。日々の排泄パターンを知る為に排泄チェック表を作成し、トイレでの排泄支援に活用しています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴、夜間入浴と入居者様の希望に合わせて入浴支援しています。また、同性介護の入浴介助を行っています。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	多くの入居者様は、日中活動を行っていることから適度の疲れで入眠されています。居室の他、リビングのイスやソファで眠られることもあります。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様個人々の生活歴を尊重し、残存能力を引き出すことにより、少しでも役割を持った生活を送ることができるように援助しています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一応お金の管理が出来る方には、お金を持っていただき買い物時等に本人のお財布から支払っていただくように促し、見守りしています。その他、お金の管理が少し難しい入居者様には支払い時のみ本人にお金をお渡しして、本人自ら支払っていただくことにより買い物の実感をしていただけるよう支援しています。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩やドライブ等行っています。買物の希望があった時や散髪希望時も職員と一緒に外出しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別での外出支援はまだ行ってないが、少人数での外出支援は行っています。ただ、入居者様本人から何処へ行きたい等行き先を申し出ることがほとんど無いので、今後は入居者様が行きたい所を申し出られるような環境作りや促しを職員全員で取り組んでいきます。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	1Fユニット内の入居者様は居室内に電話を設置している方がいないので、入居者様が電話を使用したい時は職員に申し出てホームの電話を使用されています。また、ご家族様からかかってきた電話は他の入居者様に聞こえないところでゆっくりとお話されています。また、手紙を書いて欲しいと希望された時は、職員が代筆しています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様等が来訪された時は、入居者様本人の居室でお話される方が多いが、居間で会話されている時は、入居者様、ご家族様の了解を得て職員も一緒に会話に参加させていただいています。また、玄関は無施錠なので気軽に来訪できるよう配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入職もない職員は、介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為についての理解は十分とは言えないが、現在の状況で身体拘束を行う事はありません。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員が1名(夜勤時)の時は夜間だけ防犯のため施錠していますが、その他の時間帯は施錠していません。また、入職もない職員は、施錠するとなぜ弊害がでるかという理解は十分とは言えません。入居者様が居室の施錠を行う事はありますが、職員が施錠する事はありません。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に入居者様の身体・精神状態を観察し、歩行時の見守り、声かけ等を行っています。また入居者様の所在を常に確認するため、職員間の声かけを励行しています。必ずユニット内は最低職員1名以上配置しています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁使用時は職員が側に付き添い、見守りながら調理等を行っています。ハサミについても同様に職員が見守りながら使用しています。入居者様が誰でもいつでも使用できる場所に置いてあります。洗剤等は入居者様の目の届かない場所に保管しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤薬防止のため毎食事服薬前に日付、名前、食前・食間・食後に服薬するものかを職員が声を出して確認し合っています。火災等を防ぐ為に入居者様の喫煙場所を決めさせていただいています。また、転倒事故等が起きた時は、必ずカンファレンスを行って再発防止に取り組んでいます。食事時に誤嚥や窒息を起こさないよう職員が入居者様の側に同席し見守りをしています。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	入職もない職員は、応急手当等の実践は未実施です。	○	職員全員が救命講習を受けれるよう計画を立て、実施していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者が中心となり、防災計画や避難経路の確保、火災警報器の点検等、定期的に取り組んでいます。避難訓練・消火訓練の実施、その他近隣のGHと連携を取り、災害時には相互の施設を避難場所とすることで合意しています。ホーム近隣地域の方々への働きかけは、十分とは言えません。	○	災害が発生した際に、協力して下さる近隣住民の方の数を増やしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者様に状態変化が起きた場合、ユニット責任者が、その都度ご家族様に連絡し常に入居者様の精神・身体的状況を伝えています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の体温測定、その他ホーム看護師が週3日、入居者様の健康管理をしています。体調急変時には提携している病院の医師と24時間、365日連絡が取れるようになっています。また入居者様の医療情報等をまとめたファイルも作成しています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様個々人の服用薬がすぐわかるようにファイルにまとめ、職員がいつでも閲覧できるようにしています。服薬時には職員同士日付、名前、食前・食間・食後の薬かを毎食事確認してから服薬していただく事で誤薬の予防に努めています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	声かけや促しによりお茶の時間、おやつ等の時間に水分を摂取していただいています。食事時には牛乳も一緒に飲んでいただいたり、運動のため散歩の機会を設けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居様が歯磨きされている場合は、口腔内の清潔確認が困難なこともあります。週に2回歯科往診があり、その際口腔内清掃を行ってもらっています。毎日、入眠前には義歯使用の入居者様の義歯をお預かりして義歯洗浄を行っています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事は入居者様全員同じ内容ですが、医師から食事内容の変更指示があった場合は、入居者様個々に合わせた食事量や栄養バランス、水分量が摂取できるように支援しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し職員に周知しています。また、毎日ホーム内清掃後、塩素系洗剤で消毒を行うことにより感染予防に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具や食器等は、毎日、漂白剤で消毒しています。食材は週2~3回店舗に買い物に行くので、新鮮で季節に合わせた献立内容を提供出来るようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夜間以外、玄関は施錠せず、入居者様が好きな時に自由に入出入りできる様になっています。また、玄関前にはベンチを設置し、くつろげるスペースに配慮しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間、食堂に四季折々の花を飾ったり、季節ごとの掲示物を飾っています。	○	季節感をより身近に感じられるよう、職員間でアイデアを出し合い工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関を入ったりリビングの前のスペースにソファを設置し、一人になれる空間作りをしています。また、複数の入居者様同士の使用も見られます。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に入居者様・ご家族様と持参物の設置場所を相談したり、入居者様が以前から使用していた家具等を持って来ていただいたりしています。入居期間の長い入居者様は、本人がお気に入りの絵や写真等を居室内に飾っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレの窓に網戸を付け、換気を良くするようにしています。入居者様の多くは、寒がる傾向がありますが、夏の暑い日に寒いと言われた時には、短時間外に出て外気温を肌で感じてもらい、その後で室内の温度調節を行っています。リビング、居室等すべて網戸付の窓を開けられるので空気のおよみはありません。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	通路や廊下には通常の手すり、トイレには麻痺に合わせた可動式手すりを設置しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	風呂場やトイレの場所が分かり易いように目線の位置に文字で大きく表示しています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	敷地内に庭や畑があるので花を植えたり、家庭菜園で入居者様と職員協同で野菜作りをしています。玄関前にはベンチを設置し好きな時に外気浴ができるようにしたり、入居者様がゆとりある生活を送ることが出来るように配慮しています。		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ③
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)